

NPO 法人やまぼうし自然学校

ニューズレター 2009年

秋号



えいっ！小さな手足から生まれる遊びは無限大（サマーキャンプ in 信州でのヒトコマ）

代表理事よりご挨拶



加々美貴代（がみちゃん）

やまぼうし自然学校の今年の大きな出来事の一つに、2名の新規スタッフ採用があげられる。木に例えるなら、最初は2枚の葉しかなかったけれど、今では7～8枚の葉を付けるまでに成長した。一枚一枚の葉は、光を栄養に換え、色んな事を生み出す力となって木の成長を支えている。年輪（成長の証）の幅も、年によっては見えない程狭かったりするかもしれないが、マイナスになることは無い。樹齢10年を迎えるやまぼうし自然学校という木に、どんな実を实らせていくか、これからが楽しみだ。

発行：特定非営利活動法人 やまぼうし自然学校
住所：〒386-2204 長野県上田市菅平高原 1223-5751
TEL：0268-74-2735 FAX：0268-74-2795
Email：info@yamaboushi.org URL：http://yamaboushi.org

スタッフよりひとこと



瑞慶覧明子（ずけちゃん）

落語家と笑売人をゲストに招き、笑いのつぼを伝授いただいた。共通するのはお客さんに寄せる“あなたが好き、だあい好き！”の気持ち。昨日までの他人が今日、笑い声でつながる嬉しい出会いでした。笑顔と真顔が入り混じる事務所は、通行人を狙うハンターのたまり場。来年もやまぼうしに要注意！



佐藤明希（あつきい）

「涙は心の汗」。友人から素敵な言葉を教えてもらった。そういえば、泣いて、心がたくさん動いた時にあふれ出る。いつも、自分や他者の心の「今」を認められるようになりたいと思う。今年もたくさんの人や自然との出会いに感謝。



武重芽里（めりちゃん）

初めて目にする・体験する、あっという間に「冬支度」「冬景色」！の菅平に目を回しています。下界との景色や気温の落差にも目を見張るばかり。日々辛さを増す寒さも、筑波大学実験センターの凍った滝やイグルー作り等のお楽しみを運んでくれると思うと、何だか楽しく感じられます？！



西澤純子（じゅんじゅん）

丸太の玉切りに薪割り、炭焼きなど経験したことのない事ばかり。あっという間に過ぎていく時間の中で、毎日を「生きている」幸せを噛みしめています。夏のキャンプに参加してくれた子に、学校の体験学習で再会する場面もありました。こんな偶然あるんだ！と、なんとも嬉しい瞬間でした。



保母裕美（ほぼちゃん）

スキー場開きが遅れた上田地域。この初冬は特別暖かく、晴れた日の日差しはポカポカ。タンポポやハルジオンが途絶えることなくポツポツと咲き、雨の朝は春の匂いがします。雪国での生活も変わるときが来たように感じます。



石川順子（じゅんちゃん）

我が家のカエデ。北側隣家のアオギリ。西側隣家のコブシ。秋の落ち葉掃きは晩秋の恒例行事ですが、今年はいつになく葉が「落ちない」。ことに狭い路地にぎっしり積もるようなアオギリがやっかいなのですがこの「大仕事」にとりかかったのが、今年は12月も半ばすぎ。やはり何かおかしい。じきにお正月に落ち葉掃きするようになるのでしょうか・・・。



仲川好乃（よっちゃん）

いろいろありました。黒猫と犬が天国に遊びに行ってしまう、転職に引越して落ち着かない一年でした。来年はちょっとのんびり過ごせたらいいな～あ。



長谷川功（はせじい）

メリハリのある四季であってほしいと思っていますが、地球温暖化は加速度的に進行しているのでしょうか。スキーシーズンの始まりに、かるうじて恵みの雪が間に合いました。事務所の冬支度はほぼ完了。11日に、待望の除雪機が入りました。除雪体制万全の時は、少雪となってしまうのでしょうか？

なぜ骨を取るかと聞かれたら ～命との対話～

最近、事務所でカモ、キジ、シカの骨を取り出す機会がありました。道路の真ん中に何かが横たわっているのを、どなたも見た経験があるでしょう。私が小さい頃（今でも小さいですが）ご近所には何故かネズミだのハトだのの死体がちよくちよく転がっていました。友人と悲鳴を上げながら脇を通り過ぎた後、私は密かに駆け戻って拾い上げ、可哀想だからと家の庭に埋めていました。今思うと、感染症の心配など、非常～に危険なことをしていますね。しかし私にとって死はどこにでもあるもので、ただそれを見るか見ないかの差なのです。轢かれてしまったタヌキやテンも同様。奪われた命を骨や皮にして活用することで、少しでも供養になればと思って作業しています。



鳥たちの、かわいらしいほど小さく薄い頭骨（とうこつ）は、実は飛ぶための進化です。タヌキの顎を持ち上げてみると、のほほんとしたイメージとは違う、イヌ科の証拠である鋭い牙（犬歯）。うわお！ 噛まないでね。シカなどの草食動物では、年を取れば取るほど草をすり潰す際の摩擦で歯がすり減ってぼろぼろ。

一貫しているのは、“死を連想する骨や毛皮に触れれば触れるほど、正反対に位置する筈の「いのち」が愛しく思えてくる”こと。一般の方々も、骨や毛皮を避けて通るかと思いきや、イベントで展示すると、おっかなびっくり眺めたり撫でたりして下さる方が多いのは、そのせいかもしれません。

私の両親は、トリ肉が大の苦手です。自宅で飼っていたニワトリが調理される姿を幼い頃に見たからです。でも苦手な人は苦手、得意な人は得意で良いのです。「可哀そう」「怖い」等々感じる理由を、胸の中で日々探り当てることが大事だと私は思います。例えば、「ただ気味が悪い」なのか「自分やペットが事故に遭うことを連想し、怖い」なのか。自分が無意識に抱いている生への思いや、それに気付いていなかった自分に気づく機会となるかも知れません。大事な命を頂いて生きる自分を『骨身』で理解させてくれる大先生、それが骨なのです。



文・武重芽里
イラスト・佐藤明希

イベントレポート 東京支部

【真鶴半島自然観察会 09.10.1, 17】

魚つき保安林と海岸を散策する、リピーターも多い真鶴半島自然観察会。今年も平日と週末の2コース開催した。この観察会を通して参加者に伝えたかった思いとともに、当日の様子をレポートする。



文・飯河 正

この森と人間とのかかわりを思い描いてほしい
昔から漁師たちの間で「魚を育てる森」として大切に守られてきた森。すぐ脇の海岸は高さ20m程の崖壁。森がつくる影が暗がりをもたらす、魚の絶好の隠れ家となる。雨水は森に吸収されて海に流れ出すため、プランクトンが繁殖する。さらに、海水の温度変化が少ないので魚などの生息と繁殖に適しているのだ。今回三ツ石海岸で会うことができた「ウメボシソギンチャク」は、満潮になると、恋紅色の花を咲かせたようでとても美しかった。



内陸の森と海岸の森の違いを、木の種類や地形の観察から感じ取ってほしい
明治維新後に、皇室御料林として、戦後は町に払い下げられて大切に守られた森。樹齢350～400年のマツの群生や、クスノキやスダジイの巨木に出会うことができる。今回も、スダジイの実をたらふく味わうことができた。林床には、ヤマブオ、ミズヒキ、チヂミザサ、ノササゲ、ノブキ、ハエドクソウなどが私たちを歓迎してくれた。「縁起が良い」とされるキチジョウソウの群生の葉の陰には、薄紫の可憐な花が見つかり、一同の感動を呼んだ。



「森と海」の組み合わせで多彩な植物と、巨木林、めずらしい生き物も賞玩できた観察会であった。今回ご参加の方にもまた来ていただけるよう、私たちインタープリターの技術の向上に、努力が欠かせないと思いを新たに2日間。

多くの方との「チームワーク」が大切であると痛感、感謝したイベントでもありました。次回の江戸城・北の丸も楽しみに！



ピザ窯完成レポート 長野校

【地域発 元気づくり支援金助成事業】
「間伐材を利用した、ピザ焼き窯づくり」

間伐材活用事業の一環として、間伐材を使って気軽にピザづくりをしたいとの提案に、スタッフの長谷川さんが立ち上がりました。以前のやまぼうし自然学校のプログラムでは、ピザづくりはいつも炭焼きとセットでした。でも、今回新たに完成したピザ窯を使えば、デイキャンプなどでも、気軽にピザづくり体験を提供できるようになったのです。

前回のニューズレターでご紹介した、耐火レンガを積むだけの簡易ピザ窯とは違い、今回は常設のピザ窯。設計図をにらみながら、長谷川さんが頭をひねる日が続きました。

まずは窯を設置する「自然体験の森」の一角の地ならしから。でも、始めてみると手作業では大変。そこで菅平のホテルの方をお願いをして、重機を使って地ならしをしていただきました。

側面を積みあげたら、ベニヤで作った枠をはめ込み、サンダで削って整形した耐火レンガを積んで、かわいらしい形に。最上段のアーチが少し前に突き出たデザインが、長谷川さんのこだわり。ベニヤの枠は、最後に燃やします。



窯を温める時は鉄板をはずし、ピザを焼く時に鉄板を差し込む設計は、効率よく窯を温める工夫。窯をふさぐ鉄板は、いつも無理を聞いてもらっている金物屋さんにも具合よく曲げてもらいました。



たくさんの人に協力していただきながら、完成した3基のピザ窯。薪ストーブに利用できないため、菅平でも貴い手の少ない間伐されたカラマツが、大活躍。遊び隊まつりで作った、昨年スタッフが植菌したヒラタケと菅平産トウモロコシをのせたピザは、飛ぶように売れました。これからたくさん笑顔をお届けするのであろう、やまぼうし自然学校の期待のニューフェイスです！



森でモリモリ遊び隊

9月5,6日 秋の遊び隊キャンプ
沢遊び、五右衛門風呂、たき火料理、もちろんテント泊！

10月18日 秋の森遊び
木登り、お宝探し探検、ススキ決闘、招待状づくりなどなど

11月15日 遊び隊まつり
遊び隊の楽しさをおすそ分けした「遊び隊まつり」。小さい子にはおまけルールをつくるやさしさ、商売上手な賢さ、オーダーメイドにも応える創造力。みんなのアイディアに保護者もスタッフもびっくりで、とても楽しいお祭りでした。



フォレストキッズ

9月5日
川遊びを予定していましたが、天候に恵まれず、小手指農場へ。

10月3日
前日からの雨に、室内で体を使ったゲームで大盛り上がり！

11月3日
クマさん農場の新しい畑の整備とお芋の収穫。芋汁の昼食に、おやつは焼き芋。報酬も、もちろんさつま芋！



自然体験レポート

「わぁ、大きくなったね〜」。一挙手一投足がかわいくて、ほほが緩みっぱなしのスタッフ。毎年、春と秋に依頼をいただいている幼児と保護者向けの自然体験活動。常連さんもいて、半年の成長ぶりに驚きます。今回は、落ち葉を使った「着せ替えミノムシづくり」と焼き芋！（09.10.23）



春の芽ぶきを感じた広場で、今度は色とりどりの落ち葉を拾いました。季節の移ろいを、五感で感じるひとときです。保護者が拾うのは、色も形も美しい葉。子どもたちが手から離さないのは、虫食いだらけの茶色い葉。目の付けどころの違いを発見するのも楽しかったです。

「芸術魂」に火がついて、作品づくりに熱中する保護者。大人が夢中になっている傍らで、子どもが遊んでいるって素敵な光景です。スタッフの作っていったサンプルよりも、数倍素敵なミノムシが次々に完成しました。家の畑でとれたサツマイモだから、焼き芋もとてもおいしくできました。



目線が地面に近い幼児は、えっちらおっちら歩きながら、いろいろなものを発見します。落ち葉のシャワーも楽しくて、何度も何度も繰り返します。

森ではないグランド脇の広場でも、自然体験できるんです。これからの季節は、温かいお茶をポットに入れて、「お外カフェ」もおすすめです！

信濃毎日新聞に、掲載されました

代表理事 加々美が寄せた原稿が、信濃毎日新聞に掲載されました（2009.11.26）。今後も3～4ヶ月おきに、掲載される予定です。

やまぼうし自然学校が活動拠点にしている上田市菅平高原では、カラムツの落ち葉が黄金の雨のように降りそそぐ季節が終わり、白い雪が舞う時期が来た。今回は「ふるさとを愛する心」について考えてみたい。

中部森林管理局管内の森林にかかわる団体が年に1度集まる「森林ボランティア・NPO連携推進会議」が10月、松本市のアルプス公園をメイン会場に開かれた。参加者の平均年齢は65歳以上。とても元気な、森の楽しみ方を知っている「達人」ぞろいで、地域では森林整備ボランティア活動を積極的に行っている。ふるさとの森や山が大好きで、地元の自慢話に花が咲く。子どものころ、山や川で遊んだ楽しい思い出が、ふるさとの自然を守る活動への原動力にもなっているようだ。

私たちの「森でモリモリ遊び隊」の月1回の活動でも、森での体験を通じて「ふるさとを愛する心」を地域子どもたちに培ってもらうことを大切にしている。

この夏、クロサンショウウオが住むことから「クロサンショウウオの森」と呼ばれる菅平高原の森での活動中のことだ。上田市の小学校低学年の男の子が、自分だけの秘密基地作りに没頭していた。「ここでなら何でもできる気がする」と自分に言い聞かせるようにささやきながら、木の枝や麻ひもを手一人で黙々と作業を進めていた。その子が遊び隊の隊員になったのは今年の春から。隊員の中でも体が小さく、始めは泣きべそをかくことも多かった子から出た、胸を打つ言葉。森はそんな子どもたちの「名言」であふれている。

子どもたちが自分のペースでじっくり考え、何かを生み出し、そして自信をつけて帰っていく。森がそのような場であり、私たちの活動がそのお手伝いになればと願っている。森でのさまざまな体験が、将来的には「ふるさとを愛する心」、さらには「地球を愛する心」へとつながっていくことを信じながら。



私たち大人だって、森で楽しむことができると思う。森で休んでリフレッシュ！そして、子どものころを思い出し、森の素晴らしさを子どもや孫に伝えてみよう。森の中では誰もが主人公でヒーロー、ヒロインになることができるはずだ。

（写真：森林インストラクター養成講座にて）

やまぼうしインプリ発信

畑と食卓を結び、インタープリター：小林修



プロフィール

長野県小布施町在住/信州堂 代表/農業/
やまぼうしインタープリター/スキーインストラクター
会社員、森林ガイドを経て、農家出身でもないのに、ほぼ
独学でゼロから農業へ。現在、目覚ましい成長を遂げる、
大注目の若手農家。旬果旬菜を北信濃・小布施から全国へ。

やまぼうし自然学校との出会い

体が動かす仕事がしたいと思っていたので、以前から農業に興味はありました。しかし、教えてくれる人もいないし、ハードルが高いなと感じていました。では、林業はどうだろうかと思いましたが、いきなり林業ではなく、森のことを体系的に学んでみたいと思い始めました。その時に目に留まったのが、やまぼうし自然学校の森林インストラクター養成講座の新聞記事でした。会社勤めの傍ら、1年間講座に通って勉強しました。その後、研修を経てやまぼうし自然学校インタープリターとして働くことになり、今に至っています。

農業を仕事にしたきっかけ

一番のきっかけは、タイミングがあったことです。インタープリターやスキーインストラクターをしながら、体力と貧乏暮しが板についたころ、農業への転身のきっかけがありました。友人と3人で農業を主体にした会社を作りたいと話し始めたのは、今から4年ほど前です。その一人の両親が体調を崩し、農地を手放すという話を持ち上がり、それならやります！ということになったのです。そして3年半前に「信州堂」を立ち上げました。今では200aの「信州堂」は、26aの桃畑から始まりました。

農業をはじめて・・・

農業を始めて、まず思ったことは「こりゃ、大変だ」ということ。農業家の体(体力)と心(根気)になるのに、3年かかりました。今年になって、ようやく農家の1年をこなせるようになったのです。最初は最高に美味しい桃を最高の時期にと力みすぎていることもあり、出荷の時期を逃してトン単位で処分したこともあります。でも、最初は少しやっただけになっていた剪定が、10aくらいすぐ終わるといふようになってくるのです。農家を始めて、農作物へ対する見方が変わりました。

森と農業

これは、私の独特な考え方もかもしれませんが、森の草花も農作物も植物というくりでは同じです。また、果樹も農産物である前に木ですので、木とはどういうものか、木を育てるとはどういうことかというのは、森で学んだ、太陽を好む木と、

そうでない木の知識などが役にたつわけです。森で学んだ木の特性は、リンゴや桃の木の剪定に生かされることとなります。自然の恵みと農業の違いは、人の手が加わるかどうかであると思います。木の実はある程度勝手になりますが、そこへ、よりおいしく、より大きくするために人が何を手助けできるかなのです。

農業の面白さ

各地で収穫体験は盛んですが、私はただのプログラムで終わらせたくないし、その収穫に至るまでの仕事の積み重ねを体験してほしいと思います。農業は大変だと先に述べましたが、苦ではありません。やればやっただけ収穫物に結果が表れますし、四季の移ろいを感じながら仕事をできるのも楽しいです。自然相手なので、うまくいかない事の方が多くありますが、毎日新しい発見があります。ませんし、その作業もその年の天候などによって少しずつ変わっていきます。収穫してみなければわからない事、食べてみないとわからない事も多く、これで完璧！というものはありません(前角さん談)。だから面白いのです。日々工夫を続け、お客さんから「こんなに美味しいを食べたの、初めて！」と言われると農家冥利につきます。百姓と呼ばれる人は、たくさんの知識がある人、いろいろな事ができる人のことを指すと言います。それだけ色々な種類の作業があるのが農業なのでしょう。信州堂としては、作る側と食べる側がもっとコミュニケーションをとれるようになること、信頼関係を結ぶことが目標です。おかしな例えかも知れませんが、「信州堂のリンゴは、まずいけど毎年買いますよ！」と言われること。もちろんおいしいものを届けられるよう努力していますが、「今年のはちょっと甘みが足りないけれど、来年もよろしく！」と言われるくらいに、味よりも、作った人への信頼や気持ちを買うような関係を目指していきたいと思います。



食について思うこと(消費者の皆さんへ)

最近の消費者は、自分の口に入るものに対して知らなすぎると感じる事が多々あります。一番原始的な部分でいうと、その日1日を生きるために食べるはずなのに、あまりに食べ物がある状態が当たり前すぎて、中身を知らないのです。食べられればよい、お腹が満たされればよいという感覚なのかもしれません。でも「食」とは「命」です。有機野菜などといった言葉の定義を語る前に、自分で畑に行き行って選んでほしいと思います。食べる物のこと、それをつくる人のことをもう少し考えてみてほしいのです。現代の人は、農業者から見ると「生きている」というより「生かされている」状態です。全員自給自足をすることは難しくても、自分で食べるものくらい、どこで誰がどんなふう、どんな思いでつくっているかを調べてみてほしいと思います。「食」を大切にすることは、「命」を大切にすることなのでから。



(信州堂の栗畑にて、左が小林さん、右が前角さん)

フォトコンテスト2冠!

~ 2つのフォトコンテストで、最優秀賞をいただきました ~

その1 CONE (自然体験活動推進協議会) 主催 2009年度 夏の自然体験活動フォトコンテスト 最優秀賞「えいっ」(今回のニュースレターの表紙写真)

「小さな手で藤蔓を握りしめ、小さな足で木の幹にしがみつくと、誰からともなく始まった、しがみつき大会。アイデアと笑顔が、森じゅうにひろがる。」

サマーキャンプ in 信州でのひとこまを投稿しました。藤蔓にぶら下がって、勢いをつけて近くの木に飛び移る・・・そんな単純な遊びが、みんなですると本当に楽しいんです。子どもたちの中からわきあがったアイデアで、遊びが展開していく瞬間です。その瞬間に出会えることが、キャンプでのスタッフの一番の喜びです。



その2 林野庁近畿中国森林管理局・箕面森林環境保全 ふれあいセンター主催 里山デジカメ選手権 林野庁長官賞・最優秀賞「菅平の黄門様とお付き二人が森をゆく」

「山々に囲まれた長野県では、森はとても身近な存在であり、歩く度に多くの驚きや発見を与えてくれます。今回発見した存在感たっぷりの巨木は、ゾウにもジャガーにも見えました。今にも森から飛び出していきそうです。名付けて「葉裏側脈ボクシングパンチ」は、小さくて形がかわいい虫こぶ。慣れ親しんだ森でも、日々その表情は変化します。森の面白さや心地よさを体感することで、森を大切に思う人が、増えてくれることを願っています。」(最終審査会での発表原稿から抜粋)

いちおし体験学習

縄文火熾し



「マッチを使わずに、火を熾してみよう！」と投げかけると、「え～」という答えと、「よっしゃ～」という答えに分かれます。でも、やり始めるとみんな夢中。煙が出て、一向に火種ができなかつたり、火種ができてもうまく着火できず消えてしまったり。様々なドラマと、工夫と協力が生まれます。2010年度から、「縄文火熾し&窯ピザづくり」と「縄文火熾し&青竹パンづくり」が、自然体験プログラムに新登場!

火が熾きるまで

垂直に動かすのが大事
リズムカルに火熾し棒を動かすのに、まずは一苦労。歌を歌うと調子いい。

熱い視線で火がつく!?
煙の様子に、一喜一憂。みんなで見つめるその先で、煙が上がると大歓声。

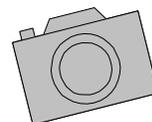
交代のタイミングも重要
棒の回転を止めないように、二人の息を合わせて、それっ!



～やまぼうしからのメッセージ～

火がつく瞬間に、こんなに歓声をあげたことがあるだろうか。「人間は、火を使えるようになって、人間になった」ということを実感する瞬間。その火の大切さは、仲間と協力する楽しさと一体になって心に残るに違いない。無から有を生み出す感動も味わうことができる。何より、野外料理の達人は、火熾しからできたらかっこいい!

++++++ 会員と読者の交流ステージ ++++++



長野県風景写真家協会・写真展 「信濃路の春だより」(グループ展に出展)
2010年1月15日(金)～1月20日(水) AM10時～PM6時

辻中隆史 写真展 「息吹～おらかな自然の彩り～」
2010年1月29日(金)2月3日(水) AM10時～PM6時

どちらも豊科サティ-3階 サティ-ホール(0263-72-3177)で開催(入場無料)、
辻中さんのHPをご覧ください(<http://photoday.org>)

やってみて! 野外レシピ

毛をむしるところから! 特製カモの燻製



2



2



4

下処理

1. カモをしとめる (今回のカモは、富山で長谷川さんがしとめたもの)
2. 毛を丁寧むしる
3. むしりきれなかった産毛は、バーナーで燃やす
4. 首をちょんぎる



6



8



8



9 すんばらしい餡色!



いただきまーす!

燻製づくり

5. 塩を塗りこむ
6. 特製の燻製液 (塩、醤油、砂糖、ハーブ各種、ブランデー) に漬け込む
7. 軽く水洗いした後、軒下に吊るして乾かす
8. 60度 に保った燻製ボックスで、3時間ほどじっくり燻す
9. 出来上がってから、涼しい場所へ吊るして1~2日熟成させると絶品!

「お~い、森!」~森だくさんな講座~

身近にある森の楽しみ方を学び、森で遊び、
森を通じて仲間の輪を作りましょう

とにかく、楽しいです!

バックグラウンドも、世代もいろいろ。そして志は同じ。そんな仲間が各地から集まります。講座の同期は、いつまでもよき森仲間です。

充実の講師陣!

この道のエキスパートが講師です

月1回、2日間

みっちり学び、じっくり楽しみましょう

思い立ったが参加日!

途中参加大歓迎。興味に合わせて、1回ごとの参加も可能です。



ガイダンス&お試し講座 2月21日(日) 10時~16時
参加費 1000円(お試し特別価格)
内容 講座概要説明、講義&樹木観察

森を楽しむ講座~森林インストラクターを目指す、月イチ講座~

「森林との対話術」を身につけてみませんか
受講仲間とスタッフが、挑戦の気持ちを盛り上げます

森林インストラクターとは

(社)全国森林レクリエーション協会が認定する資格。「森林」「林業」「野外活動」「安全と教育」の4科目試験。資格取得者は、環境教育などの分野で、幅広く指導者として活躍しています。



「お~い、森!」講座の魅力に加え、森林インストラクターの資格取得も目指す内容です。

ガイダンス&お試し講座 2月28日(日) 10時~16時
3月 3日(水) 15時~20時
参加費 1000円(お試し特別価格)
内容 大槻幸一郎氏の基調講演(2月28日のみ)
講座概要説明、講義&樹木観察

イベント情報

森の恵みのワイルドランチ

ジビエ(狩猟でしとめた獣)料理づくりとワイルドなお土産づくり

日時 1月23日(土) 10:00~15:00
 集合場所 上田市菅平高原 やまぼうし自然学校事務所
 (天気が良ければ、野外でランチ!)
 参加費 大人3,000円 小中学生2,000円
 定員 20名
 ジビエ イノシシ・シカ・カモ など(予定)
 申込締切 1月20日(水)

長野校

親子で森林整備体験

黒川の雑木林でいい汗かこう! 間伐材を使った自由工作を楽しもう!

日時 1月10日(日) 9:30~14:30(伐採作業)
 2月7日(日) 9:30~14:30(間伐材の自由工作)
 どちらか1日だけの参加も可能です
 活動場所 黒川青少年野外活動センター
 参加費 大人1,000円、小中学生500円(食材費、燃料代 ほか)
 定員 各コース15組(先着順、最少催行人数 5組)

東京支部

やまぼうしウインターキャンプ

みんなの「やってみたい!」でつくる、雪遊び三昧の4日間

日時 3月30日(火)~4月2日(金) 3泊4日
 活動場所 上田市菅平高原
 集合解散 池袋駅東口、または菅平高原
 対象 小学1~6年生、中学生
 料金 39,000円(菅平高原集合解散の方は30,000円)
 定員 30名(最少催行人数 10名)
 申込締切 3月17日(水)

長野校

スノーキャンプ in 信州

スキーと雪遊び、盛りだくさんの4日間

日程 3月26日(金)~3月29日(月) 3泊4日
 3月29日(月)~4月1日(木) 3泊4日
 活動場所 上田市菅平高原
 集合解散 新宿駅西口、または菅平高原
 対象 小学1~6年生
 料金 49,800円(菅平高原集合解散の方は39,800円)
 定員 各コース30名

長野校

9,10,11月の実施事業

森林インストラクター養成講座・小学校長期自然体験指導者養成講座
 小学校長期自然体験補助指導者養成講座(9月26日 長野、10月24日 東京)
 小学校長期自然体験全体指導者養成講座(9月26、27日、10月31日、11月1日 長野)
 実技 炭焼き・窯ピザづくり(10月10日 合同)
 実技 キノコ狩り・キノコ料理(10月11日 合同)
 実技 蔓取り・かご編み(11月7日 合同)
 実技 2次試験対策・間伐材&炭クラフト(11月8日 合同)

体験学習

明治学院大学(9月2、4日)
 中野区立桃園第二小学校(9月10日) 西東京市立東小学校(9月15日)
 大田区立おなづか小学校(9月17日) 富山県立富山高校(9月29、30日)
 ノートルダム清心女子大学付属小学校(10月8日)
 松本市立会田中学校(10月15日)
 西東京市立上向台小学校(10月18日)
 大田区立矢口小学校(10月30日)

森でもりもり遊び隊/フォレストキッズ

秋の遊び隊キャンプ(9月5日、6日 遊び隊)
 高麗川 小手指農場(9月5日 フォレストキッズ)
 室内ゲーム(10月3日 フォレストキッズ)
 秋の森遊び(10月18日 遊び隊)
 畑遊び&お芋掘り(11月3日 フォレストキッズ)
 遊び隊まつり(11月15日 遊び隊)

イベント

真鶴半島自然観察会(10月1、17日 東京)
 炭焼き&窯ピザづくり(10月10日 長野)
 親子食育イベント りんご de クッキング(10月10日 東京)
 キノコ狩り&キノコ料理(10月11日 長野)

委託

エコギャラリー新宿 樹木博士(8月23日 東京)
 丸子北中学校 コスモス大学(9月3日、16日、17日 長野)
 黒川野外活動センター 黒川森林ボランティア(9月6日、10月4日、11月3日 東京)
 中部森林管理局 木曾川森づくり in 赤沢(9月12日 長野)
 森林ボランティア・NPO 連携推進協議会、森ふれあいフェスタ(10月23、24日 長野)
 菅平スカイラインレイルランレース実行委員会 菅平の自然について(9月26日 長野)
 法人の森ガイド(9月27、10月4、11、15日 長野) プナの森の話(10月3日 長野)
 北信森林管理署 FamilyForestGarden 交流会 ガイド(10月17日 長野)
 エコギャラリー新宿 市谷小学校環境学習(10月19日 東京)
 長和町保健福祉課 親子ふれあい教室(10月23日 長野)
 丸子北小学校 北小っ子チャレンジ(10月24日 長野)
 上田市農林課 森の学校(10月25日 長野) 長野市シニア大学(11月5日 長野)
 長野大学 外部評価(11月9、30日 長野)